

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人岩手県文化振興事業団	
施 設 名	岩手県民会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	7,042	(千円)
公 演 事 業	7,042	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>本事業は、設置者である岩手県が岩手県文化芸術振興指針において掲げる「文化芸術の振興を図る6つの基本理念と方針」に基づき制作する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none">① 県民一人ひとりの自主性・創造性の尊重⇒岩手県ビッグ・バンド連盟による「エキサイティング・ビッグバンド」公演実施や岩手県民謡協会の協力による出演者の選定など、芸術団体と連携し実施した。② 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備⇒助成により首都圏での料金に比べ安価で鑑賞できる機会を提供した。また、震災復興支援センターを通じて、市内在住の被災者を公演に招待した。③ 県民の共通財産としての将来への継承⇒県内ビッグ・バンドの演奏機会が活動継続の一助となった。また、岩手民謡においてはベテラン民謡歌手から若手歌手に歌い継がれる機会の提供は文化継承につながった。④ 文化芸術による県内外の地域間交流の推進⇒国内のみならず、海外アーティストも参加し、他地域との文化交流が図られた。⑤ 県民、民間団体、市町村、県の役割理解と協同⇒前年に比べ金額は減ったが、地元企業からの協賛金獲得、広報宣伝における地元新聞社や放送局との取り組みができた。⑥ 文化芸術活動者や県民の意見反映⇒アンケートの結果、来場のきっかけについて「出演者・内容が好きだ」に68.2%の回答があり、公演内容については「とても良かった・良かった」に94.7%の回答があったことから、県民のニーズに応えることができた。 <p>上記のとおり本事業は「文化芸術の振興を図る6つの基本理念と方針」に沿って公演を組み立てることができた。しかしながら、他地域と連携することで出演料や移動経費等の削減につながり、総経費の減額が図れたことは良かったが、そのことによる変更申請を行ったため、予定通りに事業が進められなかった点もあった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>11回目を終えた「いわて JAZZ 2019」公演は、地方都市では経済的に招聘することが難しく、首都圏でしか鑑賞する機会のない世界的なアーティストを今回も招聘し、県民に「本物の音」を提供することができた。岩手県ビッグ・バンド連盟加盟団体から選抜した「いわて JAZZ 2019 スペシャルバンド」においては、「カウント・ベイシー・オーケストラ」によるワークショップ後に共演し、その演奏は好評を得ることができた。地域や世代を超えた「音」の交流から「いわて JAZZ」が創発する“いわての音”が公演の文化的意義を高めた。また、東日本大震災以降、オーストラリア大使館と連携し行ってきた企画は「心の復興」につながるとともにオーストラリアのジャズ文化を知る機会の提供は社会的意義が大きい。</p> <p>「第16回 岩手の民謡をたずねて」公演は、「唄い継がれてきた岩手民謡の正調を若い世代に伝承する」ことを目的に、岩手が誇る優れた唄い手・踊り手が一堂に会し各々の芸を披露することで、語り継がれてきた民謡や民舞を後世、特に若い世代への伝承につなげている。また、岩手の民謡のルーツは旧南部藩領だけではなく全国各地にあることが推測されることから、今回は山形県から唄い手の佐藤麻衣氏を招き山形民謡を提供することで県民の伝統芸能への理解を深め、岩手民謡の更なる文化的意義を高めるきっかけとなった。</p> <p>本事業は文化的意義、社会的意義は継続して認められるが、助成により成立している事業であるため、助成が打ち切られた場合、事業が継続しない可能性が高い。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

本事業での入場者数・参加者数の目標は1,804人である。これに対し結果は、1,671人だった。入場者数・参加者数の目標に対しては92.6%だったことから目標未達となった。

目標未達の要因としては、出演予定者のスケジュール変更による出演取りやめ、初めて出演する演奏家やそれに係る演出などの制作進行に遅れが生じ、広報・宣伝等の情報発信が不足したことが考えられる。

国庫補助金算入後の収益率の目標は86.4%である。これに対して収益率の結果は91.6%だったことから、目標を5.2ポイント上回った。他地域との連携や出演料の交渉等を行い、支出を抑えられたことが収益率向上につながった。

また、本事業におけるアンケートのQ3「公演の内容はいかがでしたか」の問いに、とても良かった⇒63.1%、良かった⇒31.3%、合計94.4%という回答を得ていることから、入場者・参加者の内容に対する評価は高かった。アンケートによる事業評価目標は達成しているだけに、本事業に関する広報・宣伝不足が徹底できず、入場者数・参加者数の目標未達になったことが悔やまれる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

例年実施している日程で公演を行ったため、新たな演出や制作に係る期間は適切で、計画通りに進んだ。事業費に関しては、他地域との連携や出演料の交渉等を行い支出が抑えられ適切に制作できた。しかし、計画より事業費が減額したことにより変更申請を行ったため、計画通りに進められたとは言い難い。

内容に関しては、アンケート結果に反映されているように「公演にいらしたきっかけは何ですか」の問いに「出演者・内容が好きと」と70.7%回答し、「公演の内容はいかがでしたか」の問いに「とても良かった・良かった」と94.4%回答するなど、本事業への入場者・参加者における評価は高かった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

本事業は、地域の文化拠点の経験を生かし、これまで出演したことのない演奏家を招聘することができた。また、世界で活躍する演奏家と地元演奏家による共演など新たな演出により実施することができた。来場者アンケート、公演内容（ジャズ、民謡）の影響により、入場者の年齢層が高めとなっているが、公演内容等については好評を得ることができた。入場料金に関しても「安い・普通」の回答が大半であり、入場者は所在地が中心になったものの県内の様々な地域から鑑賞に訪れている。このことから、文化拠点としての機能を発揮する事業が実施できたといえる。

なお、アンケート結果（抜粋）は以下のとおり。

公演に来場したきっかけ⇒「出演者・内容が好き」70.7%

公演内容について⇒「とても良かった・良かった」94.4%

入場料金について⇒「安い・普通」94.1%

入場者の年齢割合⇒10代 3.7%、20代 3.1%、30代 2.2%、40代 6.3%、50代 19.8%、60代 30%、
70歳以上 34.9%

入場者の住所⇒盛岡市 60.4%、盛岡市近郊（滝沢市、雫石町、矢巾町、紫波町）12.9%、
その以外の県内 23%、県外 3.7%

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

「いわて JAZZ 2019」公演は、アンケート結果から「とても良かった・よかった」との高評価が94%を占めた。地方で一流アーティストの音楽を聴くことができる喜びや、県内のビッグ・バンドやアマチュア演奏家に対する応援は、岩手県らしい独創性のある音楽文化につながっている。

「第16回 岩手の民謡をたずねて」公演は、全国で活躍する民謡歌手を招聘することで演奏家同士の交流が生まれ、その交流を通じて演奏技術の向上や伝統芸能に対する知識を深めることができている。「岩手の民謡をたずねて」公演の継続した取り組みは、岩手県から日本民謡協会民謡民舞全国大会などでグランプリ受賞者を多く輩出する一助となっている。また、岩手を代表する民謡歌手が出演し、岩手の民謡をベテランから若手へと唄い継ぐことで地域の文化芸術の継承と発展につながっている。

このことから、本事業実施が地域の実演芸術の振興、地域の文化芸術の発展につながっているといえる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

本事業は社会的役割に基づき計画し、アンケート結果や専門団体と協議し出演者を選定し公演を実施した。事業終了後のアンケート結果を基に、専門団体と内容や運営について協議し、内容構成や出演者の選定についての意見交換を行い、次回以降反映することになっている。

事業運営においては、県からの事業予算措置が無いため、自主事業の収支を安定させるためにも企業協賛の獲得を積極的に行っている。事業については昭和49年から開始し来場者数が約11万人以上を誇るコンサート・サロン事業を筆頭に、質の高い文化芸術公演を企画制作してきた。県民からの要望に応え、大都市で行われる公演と遜色ない鑑賞型事業を提供するとともに、鑑賞型事業で得た収益を組織として育成型事業に投資し、地域の文化振興に寄与している。

自主制作公演においては、人材育成の視点から若手演奏家の出演機会を増やす場面づくりを行っている。また、専門団体を通じて文化芸術に興味のある大学生等に舞台制作の補助を依頼し、専門人材の育成を行っている。